

薬局だより

2026 年 9 月



～認知症～



1994 年「国際アルツハイマー病協会」(ADI)は、世界保健機関 (WHO)と共同で毎年 9 月 21 日を「世界アルツハイマーデー」と制定し、この日を中心に認知症の認識を高め、世界の患者と家族に援助と希望をもたらす事を目的とし、啓発を実施しています。

また、わが国でも 2024 年 1 月に施行された「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」において、国民の間に広く認知症についての関心と理解を深めるために、毎年 9 月 21 日を「認知症の日」、9 月を「認知症月間」と定めています。

◇日本の認知症啓発のシンボルカラーはオレンジ色◇

江戸時代に活躍した陶工・酒井田柿右衛門が、夕日に映える柿の実のオレンジ色から着想を得て作り出した赤絵陶器は、海外に輸出され、世界中で高い評価を受けました。日本の認知症支援・普及活動も、この「柿色」のように世界中に広まってほしいとの願いを込めて、オレンジ色がシンボルカラーになりました。また、暖かさを感じるオレンジ色は、「手助けします」という意味を持つと言われてしています。

●認知症とは？

認知症とは、様々な病気により後天的に脳の器質障害が起こり、一度正常に発達した知的機能が持続的に低下し日常生活、社会生活に支障をきたす状態をいいます。

65 歳以上の高齢者を対象にした令和 4 年度(2022 年度)の調査の推計では、認知症の人の割合は約 12%、認知症の前段階と考えられている軽度認知障害(MCI※)の人の割合は約 16%とされ、両方を合わせると、3 人に 1 人が認知機能にかかわる症状があることになります。なお、軽度認知障害のかた全てが認知症になるわけではありません。

※軽度認知障害(MCI: Mild Cognitive Impairment)

記憶障害などの軽度の認知機能の障害が認められるが、日常生活にはあまり支障がない為、認知症とは診断されない状態。MCI の人のうち年間で 10%から 15%が認知症に移行するとされています。この段階から運動などの予防的活動を開始することで、認知症の進行を遅らせることが期待されています。



●認知症の主な種類

認知症の原因は多岐にわたり、約 70 種類あると言われています。

・神経変性疾患(脳に異常なたんぱく質がたまり脳神経細胞が障害される疾患)

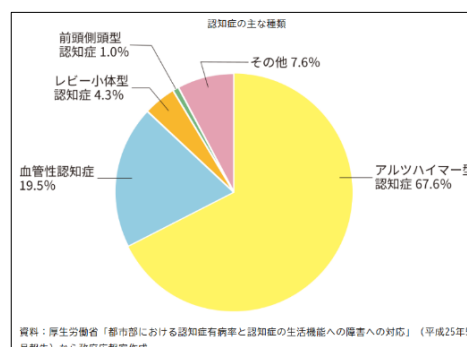
アルツハイマー型、レビー小体型、前頭側頭型認知症など

・脳血管障害

脳梗塞、脳出血、脳の動脈硬化によるものなど

・その他

甲状腺機能低下症、肝性脳症、正常圧水頭症、感染症、脳腫瘍、アルコールや栄養障害など



大部分を占めるのが次の 4 種類で、4 大認知症と呼ばれています。

	アルツハイマー型 認知症	血管性 認知症	レビー小体型 認知症	前頭側頭型 認知症
原因	アミロイドベータの蓄積による 脳細胞の破壊	脳梗塞・脳出血などの脳卒中 により血流が滞ることで脳細胞が破壊	レビー小体の蓄積による脳細胞の破壊	詳しい原因は不明
脳の変化	短期記憶をつかさどる海馬を中心 に、脳全体の萎縮	脳卒中を起こした部位のみ 血流が低下	後頭葉への血流低下	前頭葉・側頭葉の萎縮
初期症状	もの忘れ	脳卒中を起こす部位により 異なる	幻視・幻聴	社会のルールに反する言動
特徴的な症状	見当識障害・判断力・理解力の 低下・失語・失認・失行	記憶障害・運動障害・意欲低 下・感情のコントロールが効 かなくなる…など	パーキンソン症状・幻覚・幻 聴・レム睡眠行動異常症・自 律神経症状	怒りっぽくなる・我慢がきかな くなる・同じパターンの行動を 繰り返す・意欲低下…など
経過・進行	緩やかなカーブを描くように 進行	脳卒中を繰り返すたびに階 段状に進行	調子の良い時と悪い時を行 き来しながら進行	進行するにつれて意欲低下が 顕著になり、症状が目立ちに くくなる

●認知症の治療薬

脳内の神経伝達物質の減少を防いだり、神経へのダメージを調整したりして、進行を緩やかにします。次の 4 剤はいずれも認知症に用いられますが、これらの薬が保険適用となっているのはアルツハイマー型認知症とレビー小体型認知症に対してです。ドネペジルの内服薬はアルツハイマー型認知症に加え、レビー小体型認知症にも適応があります。ガランタミン、リバスチグミン、メマンチンはアルツハイマー型認知症のみ適応です。

	コリンエステラーゼ阻害薬			NMDA 受容体拮抗薬
一般名	ドネペジル	ガランタミン	リバスチグミン	メマンチン
製品名	アリセプト	レミニール	イクセロンパッチ リバスタッチパッチ	メマリー
アルツハイマー型 認知症の適応	軽度～高度	軽度・中等度		中等度から高度
剤型	錠剤、口腔内崩壊錠、細粒剤、ゼリー等	錠剤、口腔内崩壊錠、内服液	パッチ剤	錠剤、口腔内崩壊錠
投与回数	1 日 1 回	1 日 2 回	1 日 1 回	1 日 1 回
備考				コリンエステラーゼ阻害薬と併用可

●アルツハイマー型認知症の新薬

2023 年に、アルツハイマー型認知症に対する新たな治療薬「抗アミロイドβ（ベータ）抗体」が登場しました。抗アミロイドβ抗体は、このアルツハイマー型認知症の原因となるアミロイドβを取り除くことで、認知症の進行を抑制すると期待されています。世界で初めて、アルツハイマー型認知症の原因物質に直接アプローチする治療薬として注目されています。現在、**レカネマブ（商品名：レケンビ）**、**ドナネマブ（商品名：ケサンラ）**という 2 種類の薬があり、どちらも点滴で投与します。

アルツハイマー型認知症の患者さんなら誰でも受けられるわけではなく、対象となるのは認知症の前段階である軽度認知障害（MCI）または軽度のアルツハイマー型認知症と診断された方に限定されます。

抗アミロイドβ抗体による治療は、**薬価が高額**であり、限られた医療機関のみで実施されているため、治療を希望する場合、まずはかかりつけ医や地域の認知症サポート医、認知症疾患医療センターに相談することをおすすめします。

認知症ではなさそうだと思っても、以前よりもの忘れが増えている、もの忘れの程度がほかの同年齢の人に比べてやや強いと感じたら、念のために専門医を受診することが早期発見・早期対応につながります。

